

みずほマーケット・トピック (2018年9月28日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

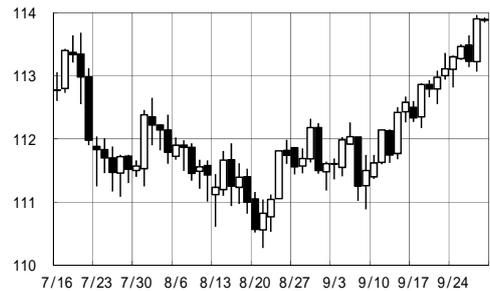
誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みです。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さいませ。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)
- 今週のドル/円相場は週後半に急伸した。週初24日に112円台半ばでオープンしたドル/円は東京市場が休場となる中で週安値となる112.27円をつけたが、英国のラフ EU 離脱担当相が「英国の EU 離脱を巡る交渉が進展し最終的に合意に至ることを確信している」と述べたことを受けてポンド/円・ユーロ/円が上昇する展開に112円台後半まで連れ高となった。25日は国連総会における演説でトランプ米大統領が中国を名指して批判すると米中貿易摩擦の激化に対する懸念を背景にドル買い優勢地合いとなり113円近辺まで上昇した。26日のFOMCでは声明文において「金融緩和スタンスを維持する」との文言が削除されると、現在の政策金利が中立金利に近づいており利上げの終点は近いとの思惑からドル売りが強まり112円台後半まで下落。会合後の記者会見におけるパウエルFRB議長の「引き続き金融スタンスは緩和的で文言の削除は政策変更を示唆していない」との発言を受けて113円台前半まで買い戻された。しかしながら、米金利が急低下する展開を横目に円買い優勢となり112円台半ばまで反落した。27日は好調な米経済指標や期末絡みのドル買いを背景に急伸し年初来高値となる113.40円を更新し、その後も続伸する動きが見られている。
 - 今週のユーロ/ドル相場は週後半に大きく下落した。週初24日に1.17台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、欧州議会でドラギECB総裁が基調的なインフレ率は「比較的力強い」上昇が見込まれるとタカ派な見方を示したことや米アパレル大手による伊アパレル企業の買収発表が近いとの報道を受け週高値となる1.1815をつけた。25日はプラートECB理事が前日のドラギ氏の発言は「目新しいものではない」とECBの物価認識は従来通りであることを示唆すると1.17台前半まで下落したが、ユーロ/円の上昇に1.17台後半まで連れ高となった。26日は1.17台前半まで値を下げたが、FOMC結果を受けドル売りが強まると一時1.18手前まで上昇。その後、パウエル議長の記者会見が始まると1.17台前半まで買い戻された。27日はイタリア政府が発表した2019年の財政赤字目標がGDP比2.4%と市場予想(同2.0%)より赤字幅が大きかったことや、期末絡みのドル買いを背景に1.16台前半まで下値を切り下げ、本日もユーロ/ドルは1.16台前半で週安値を更新している。

今週のおもな金融市場動向 (出所: ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		9/21(Fri)	9/24(Mon)	9/25(Tue)	9/26(Wed)	9/27(Thu)
ドル/円	東京9:00	112.50	112.53	112.80	112.98	112.72
	High	112.88	112.84	113.00	113.14	113.47
	Low	112.42	112.27	112.75	112.64	112.56
	NY 17:00	112.61	112.80	112.97	112.73	113.40
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1776	1.1748	1.1754	1.1763	1.1747
	High	1.1803	1.1815	1.1793	1.1798	1.1757
	Low	1.1733	1.1724	1.1731	1.1726	1.1639
	NY 17:00	1.1747	1.1748	1.1767	1.1741	1.1641
ユーロ/円	東京9:00	132.50	132.27	132.58	132.89	132.39
	High	133.13	133.05	133.12	133.11	132.66
	Low	132.17	131.91	132.39	132.24	131.58
	NY 17:00	132.29	132.48	132.92	132.35	132.01
日経平均株価	23,869.93	-	23,940.26	24,033.79	23,796.74	
TOPIX	1,804.02	-	1,822.44	1,821.67	1,800.11	
NYダウ工業株30種平均	26,743.50	26,562.05	26,492.21	26,385.28	26,439.93	
NASDAQ	7,986.96	7,993.25	8,007.47	7,990.37	8,041.97	
日本10年債	0.13%	-	0.13%	0.13%	0.12%	
米国10年債	3.06%	3.09%	3.10%	3.05%	3.05%	
原油価格(WTI)	70.78	72.08	72.28	71.57	72.12	
金(NY)	1,199.00	1,199.09	1,201.30	1,194.39	1,182.85	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 来週、米国では10月1日(月)に9月ISM製造業景気指数の発表が予定されている。各地区連銀の製造業指数を確認すると、NY連銀製造業指数およびフィラデルフィア連銀指数はまちまちの結果となる中、9月のISM製造業景気指数は60.3と8月の61.3から低下すると予想されている。5日(金)には9月雇用統計の発表があり、非農業部門雇用者数(NFP)は前月比+18.8万人(8月:同+20.1万人)と予想されている。関連指標を確認すると、週次の失業保険統計では、雇用統計調査週(12日を含む週)の新規失業保険申請件数は低下傾向を続けているほか、各地区連銀で発表された9月製造業景気指数の雇用DIは改善している。失業率に関しては3.8%と前月の3.9%から低下し、週平均労働時間は34.5時間と前月から横ばいとなる見通しだ。注目が集まる時間当たり平均賃金は前月比+0.3%と前月の同+0.4%から伸びが減速すると見込まれている。金融政策関連では、2日(火)のパウエルFRB議長による講演を筆頭に、多くのFRB高官の講演が予定されている。
- 本邦では、1日(月)に日銀短観(6月調査)が公表される。大企業・製造業DIは+22%ポイント(6月調査:+21%ポイント)、大企業・非製造業DIは+23%ポイント(6月調査:+24%ポイント)と、製造業が小幅に改善する一方で非製造業は小幅な悪化が予測されている。製造業では、自動車は半導体需要が底堅い電気機械で改善が見込まれるものの、半導体製造装置や産業用ロボットなどは高水準ながら需要に頭打ち感出しており、生産用機械は改善が一服しそうだ。非製造業は、猛暑の影響で飲料やエアコンなど一部の財の消費を押し上げたとみられるが、大型台風の影響も加わり、外出の手控えによるマイナス面が勝ったと考えられる。2018年度の大企業・全産業の設備投資計画は、前年比+13.9%(6月調査:同+13.6%)と上方修正が見込まれている。製造業では、IoT化や人手不足への対応が設備投資を押し上げるだろう。非製造業でも、人手不足を背景とした自動化・省力化投資が高まっていることに加え、オリンピックやインバウンド、都市開発関連の建設投資が増加傾向を続けているとみられる。

	本 邦	海 外
9月28日(金)	・8月新設住宅着工	・ユーロ圏9月消費者物価(速報) ・米8月個人所得・支出 ・米9月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・米9月シカゴ購買部協会景気指数
10月1日(月)	・日銀短観(9月調査) ・9月自動車販売台数	・ユーロ圏9月製造業PMI(確報) ・ユーロ圏8月失業率 ・米8月建設支出 ・米9月ISM製造業景気指数
2日(火)	・9月マネタリーベース	・ユーロ圏財務相会合(ルクセンブルク)
3日(水)		・ユーロ圏9月サービス業PMI(確報) ・米9月ADP雇用統計
4日(木)		・米8月耐久財受注(確報) ・米8月製造業受注
5日(金)	・8月毎月勤労統計 ・8月景気動向指数(速報)	・独8月製造業受注 ・米9月雇用統計 ・米8月貿易収支 ・米8月消費者信用残高

【当面の主要行事日程(2018年10月~)】

米 FOMC(11月7~8日、12月18~19日、1月29~30日)
 ECB 政策理事会(10月25日、12月13日、1月24日)
 日銀金融政策決定会合(10月30~31日、12月19~20日、1月22~23日)

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

経済指標カレンダー (2018年9月)

日	月	火	水	木	金	週末				
3	日本 自動車販売台数(8月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、8月)	4	日本 マネタリーベース(8月) 米国 建設支出(7月) 米国 ISM製造業景気指数(8月)	5	ユーロ圏 サービス業PMI(確報、8月) 米国 貿易収支(7月)	6	ドイツ 製造業受注(7月) 米国 ADP雇用統計(8月) 米国 耐久財受注(確報、7月) 米国 製造業受注(確報、7月)	7	日本 毎月勤労統計(7月) 日本 景気動向指数(速報、7月) ドイツ 貿易収支(7月) ドイツ 鉱工業生産(7月) ユーロ圏 GDP(確報、4-6月期) 米国 雇用統計(8月) 米国 失業率(8月)	
10	日本 GDP(確報、4-6月期) 日本 国際収支(7月) 日本 貸出・預金動向(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(8月) 米国 消費者信用残高(7月)	11	日本 マネーストック(8月) 日本 第三次産業活動指数(7月) 米国 卸売売上高(7月)	12	ユーロ圏 鉱工業生産(7月) 米国 生産者物価(8月) 米国 ペーシュブック	13	日本 国内企業物価(8月) ドイツ 消費者物価(確報、8月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) 米国 消費者物価(8月) 米国 財政収支(8月)	14	日本 鉱工業生産(確報、7月) ユーロ圏 貿易収支(7月) 米国 小売売上高(8月) 米国 鉱工業生産(8月) 米国 企業在庫(7月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、9月)	
17	17 日本 敬老の日 ユーロ圏 消費者物価指数(確報、8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(9月)	18	米国 TICレポート(対外対内証券投資)(7月) 日本 金融政策決定会合(-19日)	19	日本 貿易収支(8月) 米国 住宅着工(8月)	20	米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(9月) 米国 景気先行指数(8月) 米国 中古住宅販売(8月)	21	日本 全国消費者物価(8月) ユーロ圏 製造業PMI(速報、9月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、9月)	
24	24 日本 秋分の日 ドイツ IFO企業景況指数(9月) 米国 シカゴ連銀全米活動指数(8月)	25	日本 企業向けサービス価格(8月) 日本 景気動向指数(確報、7月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(7月) 米国 消費者信頼感指数(9月) 米国 FOMC(-26日)	26	米国 新築住宅販売(8月)	27	ドイツ 消費者物価(速報、9月) 米国 GDP(3次速報、4-6月期) 米国 個人消費(3次速報、4-6月期) 米国 PCEコアデフレーター(3次速報、4-6月期) 米国 耐久財受注(速報、8月) 米国 製造業受注(速報、8月)	28	日本 失業率(8月) 日本 東京都都区消費者物価(9月) 日本 鉱工業生産(速報、8月) 日本 新設住宅着工(8月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、9月) 米国 個人消費・所得(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、9月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(9月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2018年10月)

月	火	水	木	金	週末
<p>1</p> <p>日本 日銀短観(7-9月期)</p> <p>日本 自動車販売台数(9月)</p> <p>ユーロ圏 製造業PMI(確報、9月)</p> <p>ユーロ圏 失業率(8月)</p> <p>米国 建設支出(8月)</p> <p>米国 ISM製造業景気指数(9月)</p>	<p>2</p> <p>日本 マネタリーベース(9月)</p> <p>ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク)</p>	<p>3</p> <p>ユーロ圏 サービス業PMI(確報、9月)</p> <p>米国 ADP雇用統計(9月)</p>	<p>4</p> <p>米国 耐久財受注(確報、8月)</p> <p>米国 製造業受注(確報、8月)</p>	<p>5</p> <p>日本 毎月勤労統計(8月)</p> <p>日本 景気動向指数(速報、8月)</p> <p>ドイツ 製造業受注(8月)</p> <p>米国 貿易収支(8月)</p> <p>米国 雇用統計(9月)</p> <p>米国 失業率(9月)</p> <p>米国 消費者信用残高(8月)</p>	
<p>8</p> <p>日本 体育の日</p> <p>ドイツ 鉱工業生産(8月)</p>	<p>9</p> <p>日本 国際収支(8月)</p> <p>日本 景気ウォッチャー調査(9月)</p> <p>ドイツ 貿易収支(8月)</p>	<p>10</p> <p>米国 生産者物価(9月)</p> <p>米国 卸売売上高(8月)</p>	<p>11</p> <p>日本 国内企業物価(9月)</p> <p>日本 貸出・預金動向(9月)</p> <p>米国 消費者物価(9月)</p> <p>米国 財政収支(9月)</p>	<p>12</p> <p>日本 マネーストック(9月)</p> <p>日本 第三次産業活動指数(8月)</p> <p>ドイツ 消費者物価(確報、9月)</p> <p>ユーロ圏 鉱工業生産(8月)</p> <p>米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、10月)</p> <p>パリ(インドネシア)</p> <p>IMF・世界銀行年次総会(-14日)</p>	
<p>15</p> <p>日本 鉱工業生産(確報、8月)</p> <p>米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(10月)</p> <p>米国 小売売上高(9月)</p> <p>米国 企業在庫(8月)</p>	<p>16</p> <p>ユーロ圏 貿易収支(8月)</p> <p>米国 鉱工業生産(9月)</p> <p>米国 TICレポート(対外対内証券投資)(8月)</p>	<p>17</p> <p>ユーロ圏 消費者物価指数(確報、9月)</p> <p>米国 住宅着工(9月)</p> <p>米国 FOMC議事要旨(9月25-26日開催分)</p>	<p>18</p> <p>日本 貿易収支(9月)</p> <p>米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(10月)</p> <p>米国 景気先行指数(9月)</p>	<p>19</p> <p>日本 全国消費者物価(9月)</p> <p>米国 中古住宅販売(9月)</p>	
<p>22</p> <p>米国 シカゴ連銀全米活動指数(9月)</p>	<p>23</p>	<p>24</p> <p>ユーロ圏 製造業PMI(速報、10月)</p> <p>ユーロ圏 サービス業PMI(速報、10月)</p> <p>米国 新築住宅販売(9月)</p> <p>米国 ページュブック</p>	<p>25</p> <p>日本 企業向けサービス価格(9月)</p> <p>ドイツ IFO企業景況指数(10月)</p> <p>ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)</p> <p>米国 耐久財受注(速報、9月)</p> <p>米国 製造業受注(速報、9月)</p>	<p>26</p> <p>日本 東京都都区消費者物価(10月)</p> <p>米国 GDP(1次速報、7-9月期)</p> <p>米国 個人消費(1次速報、7-9月期)</p> <p>米国 PCEコアデフレーター(1次速報、7-9月期)</p> <p>米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、10月)</p>	
<p>29</p> <p>米国 個人消費・所得(9月)</p>	<p>30</p> <p>日本 失業率(9月)</p> <p>日本 金融政策決定会合(-31日)</p> <p>ユーロ圏 GDP(速報、7-9月期)</p> <p>ドイツ 消費者物価(速報、10月)</p> <p>米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(8月)</p> <p>米国 消費者信頼感指数(10月)</p>	<p>31</p> <p>日本 鉱工業生産(速報、9月)</p> <p>日本 新設住宅着工(9月)</p> <p>ユーロ圏 失業率(9月)</p> <p>ユーロ圏 消費者物価指数(速報、10月)</p> <p>米国 ADP雇用統計(10月)</p> <p>米国 雇用コスト(7-9月期)</p> <p>米国 シカゴ購買部協会景気指数(10月)</p>			

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2018年9月27日	FOMCを終えて～見えてきた転換点～
2018年9月25日	メインシナリオへのリスク点検～オーバーキルを巡る見解～
2018年9月21日	週末版
2018年9月20日	安倍首相による緩和撤退宣言～言うは易し…だが～
2018年9月19日	市場は「返り血」を浴びるまで分からないのか？
2018年9月18日	基軸通貨ユーロという「見果てぬ夢」～機能面からの再考～
2018年9月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資方針とユーロ高に対するヒントあり～)
2018年9月13日	突然の基軸通貨宣言をどう読むか～コンケル発言について～
2018年9月12日	続・リーマン10年で注目される次のショックの「芽」
2018年9月10日	リーマン10年で注目される次のショックの「芽」
2018年9月7日	週末版(「次の標的は日本」の本気度～第2回日米貿易協議(FFR)を前に～)
2018年9月6日	軟化を続けるソフトデータ～皮肉な米経済の好調～
2018年9月5日	ECB利上げを巡り政治的な動き？～ECOFINのテーマに～
2018年9月4日	主要通貨で「膠着」が続く理由～敵寄せは新興国に～
2018年9月3日	「保護主義は中間選挙まで」という危うい楽観
2018年8月31日	週末版
2018年8月29日	米国株独り勝ちをどう読むか？～BISビューに基づく抑制へ～
2018年8月28日	メインシナリオへのリスク点検～高まる欧州政治リスク～
2018年8月27日	ECB総裁が欧州委員長か～メルケル独首相の憂心～
2018年8月24日	週末版
2018年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年7月分)
2018年8月17日	週末版(2018年上半期の対米資本フローの整理～色褪せる「カネ余り」、「ゴルドロック」～)
2018年8月15日	イタリア国債利回りの急騰～もう一つの潜在的危機～
2018年8月14日	第二次資本流出局面が始まったのか？
2018年8月13日	トルコショックの眞の脅威は「欧州難民危機」の再燃
2018年8月10日	週末版
2018年8月9日	ボンド安を支えるユーロ堅調～元安、トルコリラ安も～
2018年8月8日	2018年上半期の円相場の基礎的需給環境
2018年8月7日	中国の米国債売却はあり得るのか？
2018年8月6日	ソフトデータが暗示する世界経済失速
2018年8月3日	週末版(BOE利上げの正しい読み方～市場の本音は「理解に苦しむ」～)
2018年8月2日	FOMCを終えて～肅々とオーバーキルを予想～
2018年8月1日	日銀金融政策決定会合を終えて～いつまでもチャンスは無い～
2018年7月30日	メインシナリオへのリスク点検～いよいよ「伝家の宝刀」？～
2018年7月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～金利ガイダンスの正しい読み方～)
2018年7月26日	日銀正常化観測と日米貿易協議(FFR)の関係性
2018年7月20日	週末版(「グレートモデレーション」再来を疑う時～「保険の売り」は慢心の表れ～)
2018年7月19日	危うい「理由なきドル/円上昇」～金利・物価情勢は支持せず～
2018年7月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年6月分)
2018年7月13日	貿易戦争懸念と為替市場の現状～一部市場に異変も～
2018年7月12日	週末版(「新興国市場の混乱」と「炭鉱のカナリア」～米国のクレジットスプレッドは着実に拡大中～)
2018年7月10日	ドイツ住宅市場の現状と展望～見過ごされる「バブルの芽」～
2018年7月9日	混乱を深めてきた英国のEU離脱プロセス～論点整理～
2018年7月6日	米中間戦の時～欧州も巻き込み貿易大戦の様相か？～
2018年7月5日	週末版
2018年7月4日	ECBを待ち受ける険路～「試験の秋」～
2018年7月3日	EUを迎える新たな危機～債務危機から難民危機へ
2018年7月2日	米中貿易摩擦の読み方～「返り血」は避けたい米国～
2018年6月29日	週末版
2018年6月27日	メインシナリオへのリスク点検～再び先鋭化した保護主義～
2018年6月26日	またも生き残ったメイ首相～EU離脱法案の成立～
2018年6月22日	週末版
2018年6月21日	ユーロ圏共通予算を阻むメルケル政権の危機
2018年6月20日	「ユーロ危機2.0」への警告～米国とイタリアの挟撃～
2018年6月19日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年5月分)
2018年6月15日	改めて整理する「中立金利との距離感」～分水嶺～
2018年6月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「APPIはタカ派」、「利上げはハト派」の折衷案～)
2018年6月13日	FOMCを終えて～「後ろめたさ」を抱きつつの運営に～
2018年6月12日	米朝首脳会談～市場の関心は「非核化完了」or「協議決裂」～
2018年6月11日	アベノミクス高値「125.86円」から3周年
2018年6月8日	FOMCプレビュー～テーマは「中立金利との距離感」～
2018年6月7日	週末版(外国人労働者の受け入れ拡大について～成長を望むなら～)
2018年6月6日	主要な景気先行指標の現状～世界経済の失速は露わに～
2018年6月5日	ECB政策理事会プレビュー～イタリア危機を越えて～
2018年6月4日	イタリア危機は去ったのか？～このままでは済まず～
2018年6月1日	鮮明になった「G6+1」の構図
2018年5月30日	週末版(イタリア、スペイン懸念は波及するのか～イタリア発スペイン経由南米行き？～)
2018年5月29日	17年末の本邦対外資産・負債状況～安全通貨「円」の本領～
2018年5月25日	続・イタリア政局の現状と展望～ECBが被る誤算～
2018年5月23日	週末版
2018年5月22日	イタリア政局の現状と展望～論点整理～
2018年5月21日	「双子の赤字」と総合的なドル安予想
2018年5月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年4月分)
2018年5月17日	上がらない米インフレ期待から何を読むべきか？
2018年5月16日	週末版(続・米金利上昇の余波を受ける新興国について～金融市場は「我慢比べ」の段階に～)
2018年5月15日	軟化するユーロ相場の現状と展望について
2018年5月14日	次期NY連銀総裁の考える中立金利の在り方について
2018年5月13日	APPの総括と今後の展望～仏中銀総裁講演を受けて～
2018年5月11日	米金利上昇の「負の側面」～家計・企業・海外～
2018年5月10日	週末版
2018年5月9日	最近のユーロ圏経済の失速について
2018年5月8日	海外企業買収と円相場について
2018年5月7日	米金利上昇の余波を受ける新興国について
2018年5月6日	メインシナリオへのリスク点検～通商政策リスクは顕在～
2018年5月5日	日銀金融政策決定会合～市場は「誤解」してきたのか？～
2018年4月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げはユーロ高との戦いに～)
2018年4月26日	米10年金利「3%」をどう解釈するか
2018年4月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～微修正の決断はまだ先～
2018年4月24日	ECB政策理事会プレビュー～重要決定前の奮闘い～
2018年4月23日	節目を迎える投機ポジション～短期目線に振られるべからず～